

第5年次(2007年度)の活動

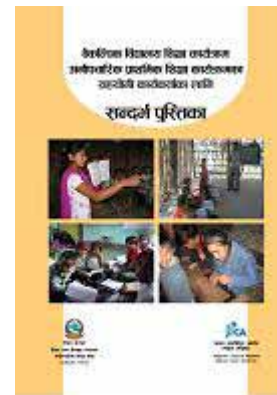
■ 最寄りの正規学校とのリンケージ強化

モニタリングと正規学校との訪問プログラムの実施によって編入前から受入予定校の教員が子どもの情報を事前に得られる



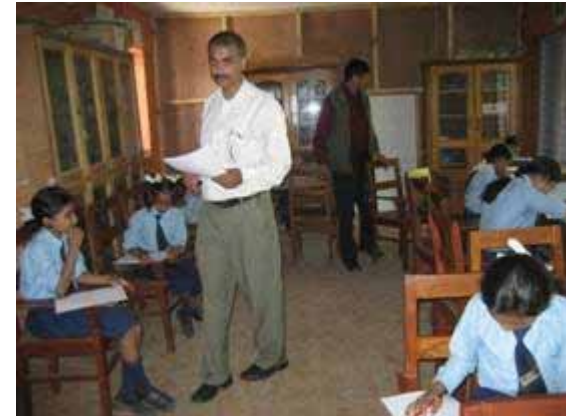
■ ファシリテーターへの投入

- ファシリテーターの教授能力向上・自信獲得
- ASP教室の子どもも正規教育同様効果的に学ぶことができる



■ アクションリサーチの実施

CASPパイロット活動ASP教室の子どもの理解度は非CASP（正規学校）地域の子どもより優れていたところもあった



■ ダディン郡でのASP教室の学校化調整

SOPは継続的に配分実施されないが 郡教育事務所がコミュニティ運営学校支援助成金の獲得努力に働きかけ、9カ所のパイロット活動対象地域のうち7カ所にコミュニティ運営学校が設立された



■ ダディン郡・カトマンズ郡パイロット活動村での村落教育計画策定の調整・実施支援

プロジェクト開始時には無かったニーズに基づくノンフォーマル教育の実施を図っていくための村落教育計画策定を支援



■ コミュニティ啓発活動

- 協働NGOとともに行う活動



教室のための建物がないケース

粗い草葺きだから夏も涼しいよ



でもね
雨降ると
寒いし濡れち
ゃうんだ

壁も机もないけど
父さん母さんが作って
くれた教室だよ



風の日も寒
いけどね～

一般の成人識字・女性識字教室は1年未満のため、
ファシリテーターの家を含め、民家の間借りも多いが、
3年間のASPは新たに場所を作らなければならないところもあるし、
その資金が出せないコミュニティもある

CASPでは教室建設に限定しない1万ルピーの基金を教室運営委員会に提供

地域特性を熟知したリソースや
手法の活用



バジャンという歌と踊りのネパール伝統芸能を取り入れた啓発活動に大人も子どもも聞き入る👏

👉コミュニティを訪問して保護者の意見を聞く

よ〜く考えよ〜
教育は大事だよ〜

「遠い学校」も「近くて遠い学校」も教育の重要性をしっかり理解して支えていくのは地域。
社会的に不利な立場にある子どもたちを取り巻く地域だからこそ啓発活動は不可欠



■ 共有ワークショップ開催 (隣接郡の関係者と情報共有)



Sl. No.	Topic	Responsible Person	Organization	Contact No.	Address
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

■ 第2回子どものためのノンフォーマル教育ネットワークワークショップ開催



■ バングラデシュへの技術交換研修



■ 国別研修(本邦視察研修)



■ 継続的活動

- TTM技官チーム定例会
- DMM郡教育事務所月例会
- カトマンス郡パイロット活動

■ ワークショップ・研修

- 集中ワークショップ
- スタッフ研修(本邦・第三国)
- 共有ワークショップ

■ プロジェクト活動完了に向けて

- パイロット活動を通じた教訓の抽出・とりまとめ
- CASPモデルの具体化と普及についての中長期計画策定

パイロット活動を通じた成果

■ 教育行政関係者へのアドボカシー

教室支援を通して、教育局、関係ドナーなどへのEFAの中の子どものためのノンフォーマル教育再認識・再考の機会を創出



■ 正規学校とのリンケージによるモニタリング

■ ノンフォーマル教育EMISの整備

■ ファシリテーター追加研修の実施



■ 関係者の教育の重要性への気づき

教室支援を通して、教室運営委員会委員、保護者、地域の人々が恒常的な子どもの教育機会の重要性に目覚めていく



■ 協働NGOによる関係者間支援の促進

- 村役場、郡役場、地域の有志、篤実家などからの
敷地・建材提供など教室建設支援
教育ボランティアの給与提供
制服、バッグ、文房具、教材の配布
健康検査実施など



■ 関係者間ネットワークの構築

子どものためのノンフォーマル教育ネットワーク強化のたたき台

■ 情報発信の定例習慣化

郡教育事務所のニューズレター発行支援



ダディン郡



カトマンズ郡

平均出席率80%

ダディン郡：SOP平均84% FSP平均78%

カトマンズ郡：SOP平均76% FSP平均83%

ダディン郡2年目から3年目へのドロップアウト9%

正規学校への3人の転入を含む

その他の主な理由は、家族の転出と早婚

カトマンズ郡1年目から2年目へのドロップアウト*20%

都市部のFSP教室はもともと登録者が流動的な傾向がある

ほぼ固定のメンバーでは13%前後

対象年齢外の子どもを取り込んでいたため、就学前教育への編入指導

で55%ものドロップアウトが出た教室、内戦停戦のため地方への帰省者

が出て67%になった教室もある

パイロット活動を通じた教訓

■ 正規教育との連携

(子どものためのノンフォーマル教育は非常に正規教育に近い)

現場レベルの連携の強化とシステム化

正規教育統括の教育局とノンフォーマル教育センターの
調整ミーティング

■ ファシリテーターへの“勇気づけ”の必要性

やる気の維持のための働きかけが必要

■ 都市部FSP教室を取り巻く保護者・コミュニティ関与促進の難しさ

コミュニティ・モービライゼーション活動のための、協働NGO・教室運営委員会委員・地域関係者間の協力調整促進

■ コミュニティ・モービライゼーションのメカニズム

ASPにおけるコミュニティ・モービライゼーション活動でのNGOの役割・活動の整理

ノンフォーマル教育センターが展開していくコミュニティ学習センター：CLC を通しての展開指針

■ 初等教育期間5年から8年への変更対応

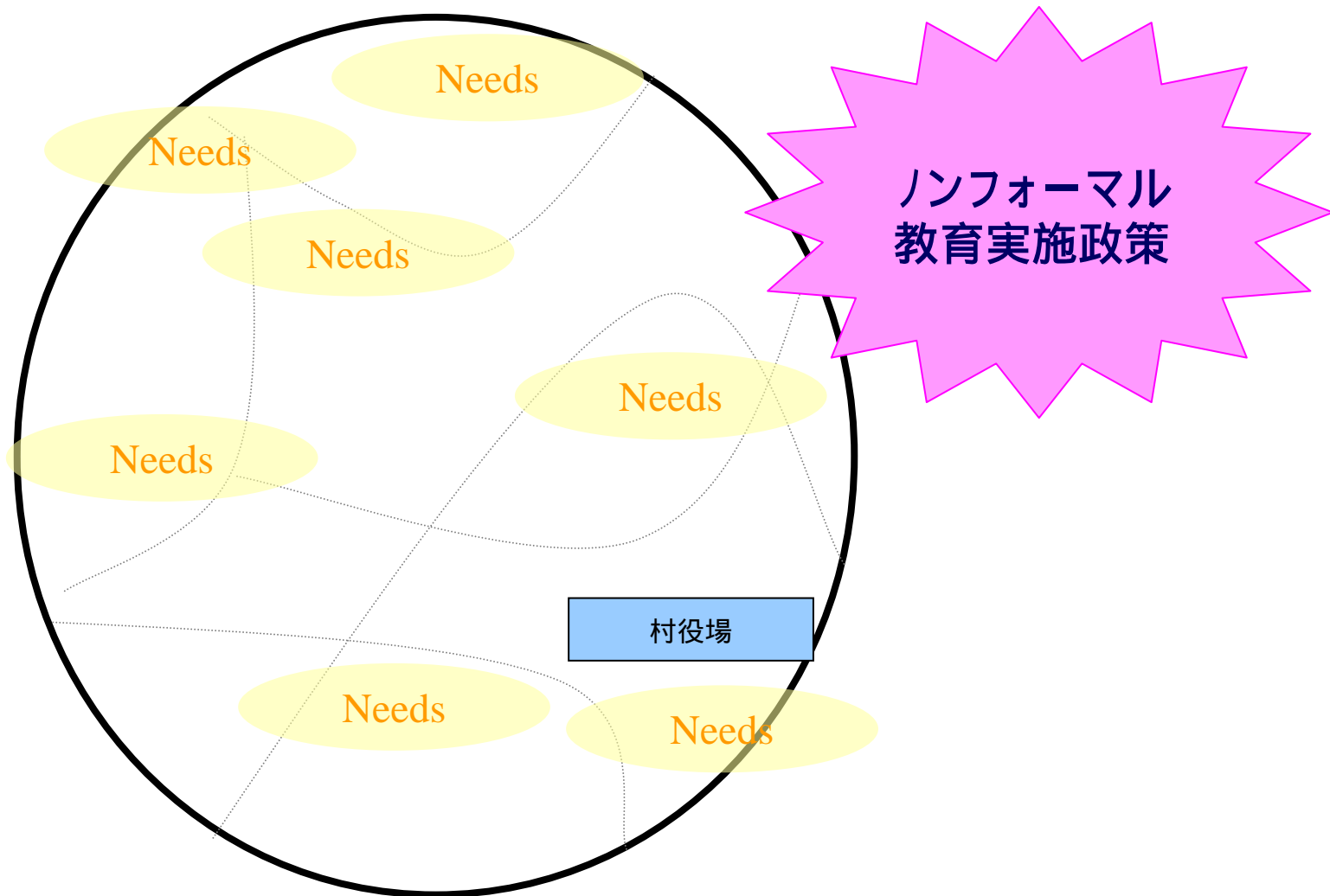
ASPは5年生までをみるプログラム

8年までのカリキュラム対応などの変更対応が必須(正規学校の受入調整や旧中等教育カリキュラム対応オープンスクールプログラム整備など)

■ 子どものためのノンフォーマル教育のリソースの絶対的不足

- 13%が就学していないのに、正規教育に対して0.5%以下の予算投入
- もとより学校がないために就学機会がないSOP対象コミュニティに永続的なプログラム提供が出来ない
- ⇒ ドナー会議・合同調整員会・その他の機会でのリソース確保の働きかけ強化

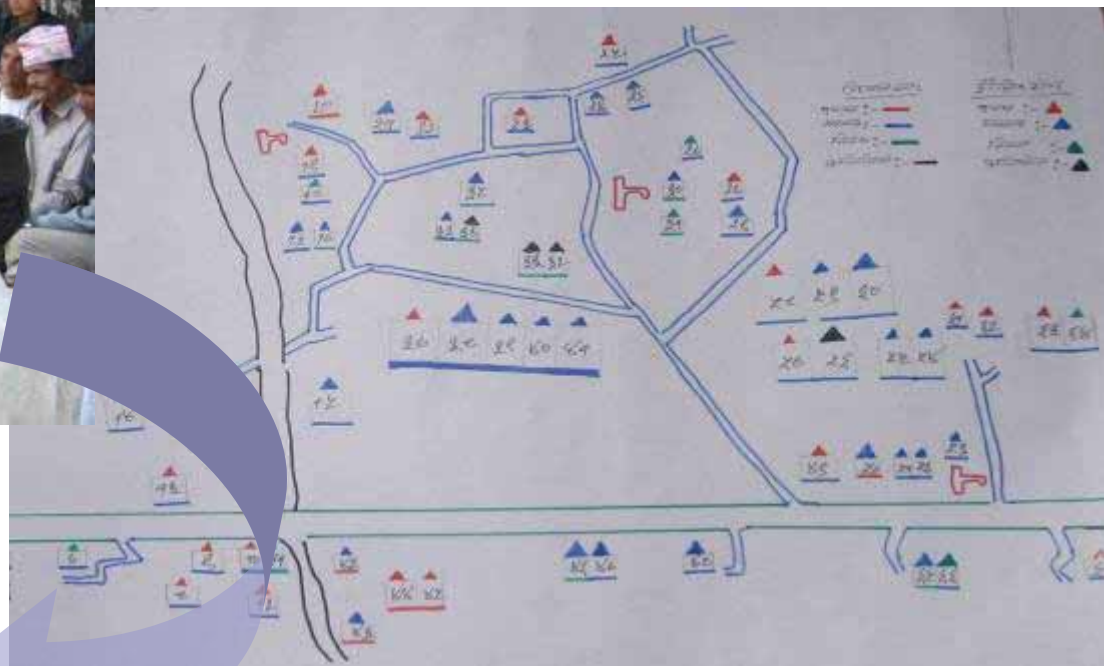
ステップ 1 : 村落教育計画VEP 導入 (村内に9ある区 wardのニーズアセスメント)



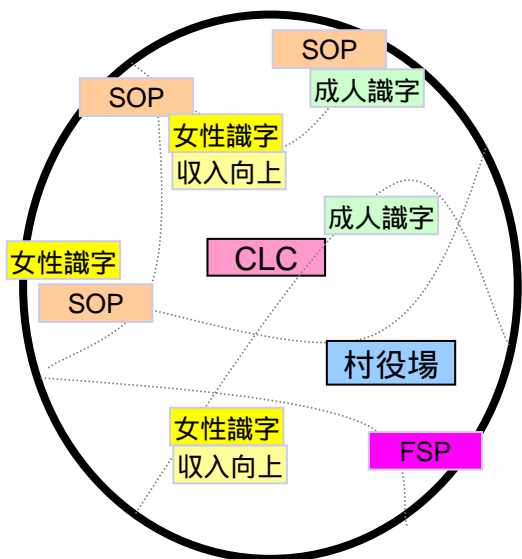
ステップ2: コミュニティ学習センター設立とプログラム配置



① 住民参加型の集会で地域住民の識字/教育/経済状況を確認



② 地域の状況を地図化



③ コミュニティ学習センター(CLC)を設立し、住民合意の上で必要な地域に必要なプログラムの配置計画立案

ステップ3：コミュニティ・モービライゼーションとモニタリング

